

## 意見集約結果

### (1)緑が丘地域のまちづくりの検討と推進について

#### ア 今年度の取組事業について ※今年度の活動内容や今後の進め方について(自由意見)

##### 地域ネットワーク形成 による健康づくり事業

- ・新型コロナウイルスの感染状況、ワクチンの接種動向等から一定の見極め期間を要するので、9～10月の設定は妥当
- ・収束傾向が見えたとしても、十分な感染防止対策は必要
- ・感染対策を行う必要があるため、回数を2～3回にし、参加者を分散させ、短時間で完結できる内容を検討するなど、工夫が必要
- ・今年度も昨年度のようなことがあり中止となった場合、代替案を考へては？  
→家でもロコモ測定する方法や予防体操のお知らせなど
- ・健康は1日にしてならず～無理なく楽しく続けられる健康づくり
- ・運動による健康づくりだけではなく、食生活・休養(入浴・睡眠)・生活習慣チェックリスト等切り口を変えていく
- ・出来れば令和2年度と同じプログラムで実施してほしい
- ・全地域で実施するのが望ましい
- ・是非継続して取り組んでほしい
- ・神楽岡東地区で実施して5地区一周となるが、その後も旭川医大・包括・まち協が連携・協力した事業として、特色ある健康のまちづくりとしていってはどうか

##### 緑が丘まち協 広報誌発行事業

- ・まち協広報誌は回覧だったが、相談窓口チラシを各家庭に配れたら良い
- ・議事(1)イとの関連で、各相談窓口をできるだけ安易な言葉で紹介してはどうか(2～3絞って)
- ・地域に育まれてきた文化・産業・歴史など独自の魅力を発信
- ・R2広報誌のように、地域の活動や交流を多く掲載していき、地域住民が地域のことをよく知るきっかけとなる広報誌にしていきたい
- ・緑が丘の強みである多世代交流についても焦点を当てていきたい  
(小中高生へのインタビューや活動の様子も取材)
- ・緑が丘地域(5地区)の活動や情報を広報誌を通して発信していくのが大切
- ・内容は実行委で話し合っただけで良いものにしてほしい
- ・年2回発行はどうか？まち協の認知度を上げるためPRを多く
- ・町内会に入っていない家庭へのPR方法

##### 緑が丘地区 防災事業

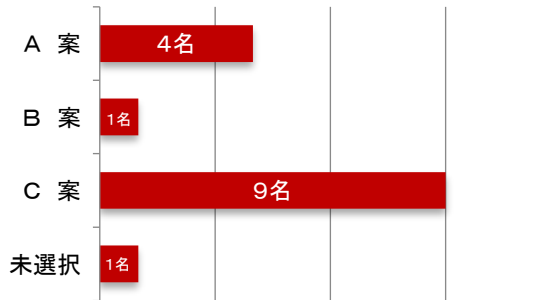
- ・新型コロナウイルス感染症の影響がどこまで続くか分からないが、可能な限り感染対策を行いながら実施していきたい
- ・仰々しい内容だけではなく、身近なことだというようハードルを下げる  
⇒座学だけではなく、フィールドワークも盛り込む
- ・防災講習会は「会場+zoom」なども良いのでは
- ・以前も防災について取り上げたらとの意見がまち協会議で出たが、取り上げず終わったこともあり、今回、地震や暴風雪など緑が丘地域でも避けて通れない課題となってきたので、地域の子供達に「防災キッズ事業」、大人には「防災組織づくりを含めた防災リーダー研修」に取り組んでは計画通り実施した方が良い

# イ

## 心配事相談室について

### 意見集約結果

- A案…既存窓口でニーズ調査
- B案…補助金を活用してニーズ調査
- C案…相談室は設置せず既存窓口の周知



C案を選択した委員が最も多く、全体の半数以上(6割)を占めたため、相談室設置については見送る方向

### 次回協議会で最終決定

なお、C案に次いでA案が多いこと、“高齢者のニーズの把握”は「緑が丘まち協プログラム」の掲載項目でもあることから、相談室とは切り離して、今後意見交換を行っていく。

## 選択理由

### 【A案】

- ・包括支援センターか社協、市の相談窓口へとつなぐ役目なので、相談窓口設置はいらぬ
- ・市社協や包括支援センターをニーズ調査の窓口のみならず心配事相談室の構成要素とし、更にそのネットワークによって行政、関係機関・団体等裾野を広げる事が必要
- ・B案のように設置を前提に進めることは本末転倒
- ・補助金を活用すると設置する事が前提になってしまうのでリスクが高い
- ・ニーズ調査した上で設置するべきかを検討
- ・C案のような既存の窓口紹介はR2広報誌でも行っているため、少しでも地域の課題解決につなげるためのニーズを把握することが必要

### 【B案】

- ・専門家に依頼できるならできそうな気がする

### 【C案】

- ・既に相談する窓口は色々な機関・団体にあり、明らかなニーズが存在しないのでは
- ・関係方面相談窓口等の活用・PR
- ・専門の相談機関を紹介する、緑が丘地区の便利なサービスを紹介するなどはどうか
- ・R2広報誌の“困ったときの相談窓口”を紹介したり、既存の相談室を内容に応じて紹介していくことでは(現に高齢者の健康は包括センターがある)
- ・まち協独自の相談室設置は人材の問題もあり難しいので、既存の各種相談窓口を紹介し、一旦事業終了とする案に賛成
- ・相談室を設置するとしても人の問題、場所・金の問題、どんな内容や事など課題も多く難しい
- ・設置に当たっての予算・人材確保が困難
- ・複数年かけたが良い方向が見つけられなかった現状を考え、一度止まって検証してはどうか
- ・令和元年より意見交換を続けて時間がかかり過ぎる当初よりニーズ調査には不要の立場にある対話も必要だが、どう行動するかを考えたら良い
- ・コロナ禍で相談を受けることが難しい
- ・解決に至るまでに困難がある
- ・設置について反対ではないが、“設置の必要性”も含めたニーズ調査が必要だと考えており、B案は難しいと思う(A案は課題として挙げられているとおり)

# ウ

## 旭川医科大学からの協力依頼について

### 受付対応

対応可の申出者の中から事務局にて1名選出

### 学生が参加可能な地域活動

幾つかの活動について情報提供があったが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大を受けて活動自粛又は縮小しているため、感染状況が落ち着いてから、活動再開した地域の情報収集及び参加に向けた調整を行う

## その他 ※次回以降の意見交換議題など(自由意見)

- ・「コロナ対策」も防災の一つであり、私達が今早急に知識をつける時期(家庭内感染の恐さを正しく理解する事で、普通の生活に戻る)
- ・特色ある緑が丘地域づくり  
地域・大学・専門学校・高校・中学校・小学校・幼稚園・保育所と全てある地域はないのでは?  
～この連携によるまちづくりなど